

# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

資料1

## 1 重点的に取り組む施策

### (1) 藤沢ブランドの創出

#### 【施策の目的】

市内には、トマト・キャベツ・ぶどう・梨・豚肉・牛肉・しらす・はまぐりなど市民に一定の認知度がありブランド化された農水産物がありますが、さらに藤沢ブランドとなる新たな製品の開発などに取り組み、販路の拡大につなげるとともに、安定生産を図り付加価値向上につながる競争力のある産地づくりを推進します。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	(新)ア 藤沢ブランドとなる新たな一次製品の創出 市は、JAさがみや漁業協同組合、生産者等と連携し、地域の特性等を活かした藤沢ブランドとなる新たな一次製品の創出に努めます。		【地産地消推進事業実行委員会】 新たな一次製品の候補としてアスパラガスのブランド化について、さがみ農協販売課の営農指導員と協議を行った。 また、六会葱組合が生産する「湘南土ねぎ(さがみ)」が「かながわブランド」に新規登録された。
2	イ 藤沢産農水産物を利用した加工品の開発支援 市は、藤沢産農水産物の付加価値を高め、ブランド化につながる6次産業化の取組を推進し、生産者等が行う藤沢産農水産物を利用した加工品の開発を支援します。	実績なし	【地産地消推進事業実行委員会】 藤沢産米に付加価値を付ける取り組みとして、酒米の生産を支援した。 付加価値を高め、6次産業化の取組を推進するため、藤沢マイスターの茶師と協働し、「サツマイモ」を「干し芋」に加工する取り組みを支援した。
3	(新)ウ 未利用魚の認知度向上 市は、漁業協同組合や関係機関と連携し、未利用魚を活用した加工品の開発やイベントにおける販売や食材としての使用などにおいて利用促進を図ることにより、未利用魚のPRに努めます。		【地産地消推進事業実行委員会】 市場において、低い価格で評価されてしまうカタクチイワシを市内漁業者に煮干しに加工していただき、小学校給食で活用した。
4	(新)エ 産地競争力の強化 市は、農水産物の安定生産と付加価値向上を図るため、競争力のある農水産業の産地づくりを推進します。そのため、機械や生産資材の導入など、産地競争力の強化の取組を支援します。		【農業水産課】 LED防虫灯導入事業(補助額:2,040,000円) 防虫農薬導入事業(補助額:391,000円) 防虫粒剤導入事業(補助額:104,000円) 農業機械導入支援事業(補助額:1,500,000円)
《目標》	目標値 :かながわブランドへの登録件数 ・現状(令和3年11月) 18件 ・5年後目標(年1件増加) 23件 うち登録名に「藤沢・ふじさわ」が入っているもの 5件		目標値 :かながわブランドへの登録件数 令和5年1月30日に審査会が開催され、「湘南土ねぎ(さがみ)」が「かながわブランド」に新規登録された。 ・現状(令和5年3月) 19件 ・5年後目標(年1件増加) 23件 うち登録名に「藤沢・ふじさわ」が入っているもの 5件

# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

## 1 重点的に取り組む施策

### (2) 藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化

#### 【施策の目的】

給食において、藤沢産農水産物等を活用することは、食に関する知識や農水産業に関する理解を深め、食育の推進を図るとともに、生産者と「顔が見える」関係づくりを通じた地域の活性化、農水産物等を供給してくれる人々への感謝の心を育むなどの様々な効果が期待できます。そのため、市は、給食における藤沢産農水産物等の利用品目の拡大及び供給量の増加に努めます。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	<p><b>(新)ア 藤沢産米の利用促進</b> 市は、JAさがみ及び水稲生産者などと連携し、給食の主食のひとつである米について、藤沢産米の供給体制を見直し、使用量の増加に努めます。</p>		<p>【学校給食課】 藤沢産米を小学校・特別支援学校では年間29回、中学校では5回使用した学校給食を提供した。精米ベースで50トン使用した。</p> <p>【保育課】 令和2年度からまたの保育園をモデル園として設定し、藤沢産新米「はるみ」の給食提供を継続した。</p>
2	<p><b>イ 藤沢産農水産物等の利用促進</b> 市は、給食で多く使用される青菜(小松菜、ほうれん草)、キャベツ、ネギ、ニンジン、ダイコンなどについて、積極的に藤沢産のものを使用するよう努めます。また、藤沢産農水産物の中で供給量が不安定で流通が少ない大豆・小麦・果物・しらすなどについて、関係機関と連携し、給食へより多く供給できるよう努めます。</p>	<p>【学校給食課】 藤沢産農水産物の入荷時期を考慮し、献立作成を実施した。 ①使用農水産物品目数:43品目 じゃがいも、にんじん、キャベツ、ほうれん草、小松菜、長ねぎ、だいこん、里芋、ブロッコリー、とうもろこし、きゅうり、なす、えだまめ、トマト、たまねぎ、にんにく、さつまいも、カリフラワー、柿、梨、新米、あいがも米、大豆、藤沢産大豆のきなこ、藤沢産小麦粉製品、しらす、牛乳、はくさい、かぼちゃ、ごぼう、ピーマン、かぶ、黄にんじん、レタス、ズッキーニ、たけのこ、さやいんげん、モロヘイヤ、小豆、そらまめ、カラーピーマン、黒米、なばな ②藤沢産新米による「新米の日」を小学校各校5回、中学校2回実施(9,460kg) ③藤沢産大豆を使用した給食をメニューに応じて各校随時使用(3,386kg) [藤沢産主力品目年間使用量 ※カッコ内は藤沢産使用割合] ・小松菜・ほうれん草 19,383kg(59%) ・キャベツ 31,509kg(65%) ・長ネギ 3,635kg(15%) ・ニンジン 4,798kg(7%) ・ダイコン 9,037kg(38%) ・トマト 1,176kg(43%) ・きゅうり 1,855kg(59%)</p> <p>【保育課】 ○藤沢産農水産物使用品目数:13品目 小松菜・ほうれん草・もやし・きゅうり・大根・キャベツ・なす・じゃがいも・さつまいも・里芋・ブロッコリー・かぶ・たけのこ</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 小糸小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。</p> <p>【学校給食課】 藤沢産食材を2品以上使用した給食で「ふじさわランチ」として小学校・特別支援学校では1校あたり年間9.5回、中学校では年間4回行った。</p> <p>【保育課】 公立保育園給食の食材として藤沢産野菜を積極的に利用した。(小松菜・ほうれん草・もやし・きゅうり・大根・キャベツ・なす・さつまいも・里いも・ブロッコリー・かぶ・えだまめ)12品目</p>
3	<p><b>ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進</b> 市は、給食用農水産物等を供給する生産者、加工業者及び流通業者と園児・児童・生徒との交流を通じて、地域の農水産業の理解促進及び食育の推進を図ります。また、給食用農水産物等を供給する生産者等に対する感謝の心を育むよう努めます。</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 ふりふりバター体験事業 市内小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。 ※同日にやまゆりポーク生産者協議会と連携して畜産の授業も実施。 日 時:10月19日(火)9時45分～14時30分 参加者:天神小学校5年生 71名</p>	<p>【学校給食課】 地産地消モデル校4校で地場産物の活用を推進した。</p> <p>【保育課、地産地消推進事業実行委員会】 藤沢市立またの保育園で、近隣の米・大豆生産農家の生産した米・大豆を給食で利用。米生産者との交流会を実施。動画を含む藤沢産米・大豆の資料とともに紹介し、保育園児童・及び保護者への理解を深めた(交流会は4歳及び5歳児のみ)。</p>

3	<p><b>(新)エ 給食を通じた家庭への情報発信</b> 市は、給食で藤沢産農水産物等を使用するだけでなく、家庭においても、藤沢産農水産物等についての理解が深まり、利用拡大につながるよう家庭向けの情報発信に努めます。</p>		<p><b>【学校給食課】</b> 藤沢で採れる食材や、「ふじさわランチ」について、献立表や給食だより等を通して情報発信を行った。</p>
4	<p><b>オ 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用</b> 第3期計画及び第4期計画において、地産地消モデル校を選定し、学校及び保育園周辺で生産されている農産物を給食に供給するシステムを構築してきました。本計画(第5期)においても、地産地消モデル校の取組を継続し、生産者や関係機関と連携を図り、学校及び保育園周辺で生産されている農産物の給食への供給量の増加に努めます。</p>	<p>・平成29年度から御所見小学校、平成30年度から亀井野小学校、俣野小学校、令和2年度から中里小学校において、課題等の整理を行い、安定・充実したシステムが構築できるよう学期ごとに生産者・関係者と意見交換を行った。 ・令和2年度からまたの保育園をモデル園として設定し、藤沢産新米「はるみ」の給食提供を継続したことに加え、大豆の提供も行った。 <b>【使用した品目】</b> 御所見小学校:20品目(ジャガイモ、キャベツ、小松菜、ダイコン、キュウリ、ナス、カボチャ、ニンニク、長ネギ、サツマイモ、里芋、ハクサイ、ニンジン、ゴボウ、トマト、サヤインゲン、レタス、枝豆、たけのこ、ピーマン) 亀井野小学校:9品目(カブ、あおな、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、キュウリ、なばな、ブロッコリー、長ネギ、) 俣野小学校:9品目(カブ、あおな、なばな、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、ブロッコリー、枝豆、長ネギ) 中里小学校:22品目(ジャガイモ、小松菜、カボチャ、ニンニク、ゴボウ、長ネギ、サツマイモ、キュウリ、サトイモ、キャベツ、ニンジン、ダイコン、ブロッコリー、ハクサイ、たまねぎ、枝豆、たけのこ、トマト、レタス、ピーマン、なす、小豆)</p>	<p>・平成29年度から御所見小学校、平成30年度から亀井野小学校、俣野小学校、令和2年度から中里小学校において、課題等の整理を行い、安定・充実したシステムが構築できるよう学期ごとに生産者・関係者と意見交換を行った。 ・令和2年度からまたの保育園をモデル園として設定し、藤沢産新米「はるみ」の給食提供を継続したことに加え、大豆の提供も行った。 <b>【使用した品目】</b> 御所見小学校:25品目(ジャガイモ、キャベツ、小松菜、ダイコン、キュウリ、ナス、カボチャ、ニンニク、長ネギ、サツマイモ、里芋、ハクサイ、ニンジン、トマト、サヤインゲン、レタス、枝豆、たけのこ、ピーマン、そらまめ、ズッキーニ、とうもろこし) 亀井野小学校:13品目(カブ、あおな、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、キュウリ、ブロッコリー、とうもろこし、枝豆、オクラ、トマト、黒米、もち米) 俣野小学校:13品目(カブ、あおな、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、ブロッコリー、枝豆、とうもろこし、きゅうり、オクラ、トマト、黒米、もち米) 中里小学校:18品目(ジャガイモ、小松菜、カボチャ、ニンニク、長ネギ、サツマイモ、キュウリ、サトイモ、キャベツ、ニンジン、ダイコン、たまねぎ、枝豆、たけのこ、トマト、ピーマン、しょうが、柿)</p>
《目標1》	<p><b>目標値 :藤沢産米の使用数量(精米ベース)</b> (小学校及び特別支援学校) ・現状(令和2年度実績)36校 7回 12, 350kg ・5年後目標 36校 22回 38, 750kg (中学校) ・現状(令和2年度実績)19校 2回 760kg ・5年後目標 19校 7回 2, 660kg (保育園) ・現状(令和2年度実績) 1園 20kg ・5年後目標 14園 1, 000kg</p>		<p><b>目標値 :藤沢産米の使用数量(精米ベース)</b> (小学校及び特別支援学校) ・36校 29回 49, 120kg (中学校) ・19校 5回 1, 950kg (保育園) ・1園 20kg</p>
《目標2》	<p><b>目標値 :学校給食における青果物の藤沢産使用割合</b> (小学校及び特別支援学校) ・現状(令和2年度) 17. 7% ・5年後目標(年1%増加) 22. 7%</p>		<p><b>目標値 :学校給食における青果物の藤沢産使用割合</b> (小学校及び特別支援学校) ・現状(令和4年度) 12. 3% ・5年後目標(年1%増加) 22. 7%</p>

# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

## 1 重点的に取り組む施策

### (3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化

#### 【施策の目的】

藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座を充実させるとともに、食育・健康施策との連携を図り、地産地消の普及啓発及び藤沢産農水産物等への理解促進に努めます。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	<p><b>(新)ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催</b> 市及び地産地消推進事業実行委員会は、コロナ下の新しい生活様式における効果的なイベント・講座の実施方法を検討し、イベント・講座を通じて藤沢産農水産物等及び地産地消の普及啓発に努めます。</p>		<p><b>【地産地消推進事業実行委員会】</b> 有機農業に着目したマルシェを開催しました。 開催日時:2022年11月26日(土)10時から15時まで 開催場所:辻堂神台公園 来場者数:523人 子どもを対象に花の寄せ植え体験を実施し、寄せ植え体験と生産者との交流を通じて、藤沢の花きに対する知識や理解を深めてもらうことにより地産地消の推進を図った。 開催日:2022年12月1日(土) 参加者:小中学生27名とその保護者 場所:藤沢市役所芝生広場 講師:花き生産者2名</p> <p><b>【高齢者支援課】</b> 『新春のつどい』において、JAさがみ長後支店に依頼して、地域の農家さんによる野菜の販売と詰め放題の開催した。</p> <p><b>【生涯学習総務課】</b> ふじさわ探キョン講座「ふじさわを歩いて見て楽しんで はじめてのふじさわ魅力発信講座」として、市内農園での収穫体験を実施した。</p> <p><b>【青少年課】</b> 藤沢産(御所見地区)の美味しいお肉や野菜などを、たき火で調理していただく「藤沢ごしょみ産アウトドアクッキング」を実施した。(10/15、1/28)</p>
2	<p><b>イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催</b> 市は、地産地消を推進する上で、消費者と生産者が「顔が見える」関係を構築することは相互理解につながるため、関係機関と連携し、農産物の収穫体験や魚介類の放流体験などの各種イベントや講座、品評会等を開催し、生産者と消費者の交流促進に努めます。</p>	<p><b>【地産地消推進事業実行委員会】</b> ・ふじさわ元気バザール～野菜マルシェ～ ・花育体験イベント事業 子どもを対象に花の寄せ植え体験を実施し、寄せ植え体験と生産者との交流を通じて、藤沢の花きに対する知識や理解を深めてもらうことにより地産地消の推進を図った。</p> <p><b>【農業水産課】</b> ・藤沢産サンセットマルシェ(毎週水曜日・金曜日) ・果樹持寄り品評会(8月)</p> <p><b>【街なみ景観課】</b> 国登録有形文化財の「旧桔梗屋」において、市内野菜生産者の藤沢産野菜を販売した。 ・4農園販売総数 1,944品/7日間 ・来場者数約1,000名</p>	<p><b>【農業水産課】</b> ①農業者を講師に、津久井在来大豆を種まきから収穫まで一連の作業を体験する機会を提供し、農業理解を図った 時期7月～11月、全7回、受講者21人 ②農産物の収穫体験と生産者との交流を通じ、農業生産の実態から流通まで幅広く理解を得ることができた。 5月28日 イチゴと枝豆を収穫しよう(参加者44人) 7月2日 トマトとトウモロコシを収穫しよう(参加者21人) 7月21日 トマトとトウモロコシを収穫しよう!(参加者55人) 8月6日 落花生と枝豆を収穫しよう(参加者48人) 10月15日 さつまいもとズッキーニを収穫しよう(参加者25人) 11月5日 旬の野菜を収穫しよう(参加者30人) 2月25日、3月4日 トマトとイチゴを収穫しよう(参加者57人) ③地引網漁業体験学習イベントの開催 実施日8月26日 参加者数115人 ④漁場体験イベントの開催 実施日8月2日 参加者数72人</p> <p><b>【六会市民センター】</b> ①六会地区伝統しめ飾り講座に向け、同地区内で稲を育て収穫した。②特徴的な藁の編み方や、しめ飾りに使う紙垂や橙、裏白等のいわれを地元の継承者から学んだ。③地区内の野菜農家の畑へ行き、農産物を収穫体験するとともに生産者からの話を聞くことで、地域の農業や地理的特性について学んだ。</p> <p><b>【長後市民センター】</b> ①市民センター近隣の畑でサツマイモの収穫体験と、焼き芋の実施した。②『親子野菜づくり体験教室』畝づくり～苗植え～草刈り～収穫の工程を半年かけて実施した。③地域農家の指導のもと、プランター等でもできる野菜作りを学んだ。</p>

			<p>【善行市民センター】 ①善行地区内の畑で栽培した落花生を、地区内福祉団体利用者及び地区内の子ども学級(公民館共催)が収穫した。②地域住民が所有しているわらを提供してもらい、しめ飾りづくりを開催した。③会員が所有する畑にて野菜(大根・里芋など)を栽培し、公民館まつりで販売した。</p> <p>【村岡公民館】 ①地元農家さんの協力のもと、さつまいも苗を畑に植えた。②地元農家さんの協力のもと、さつまいも畑の草引きと、夏野菜のピーマンの収穫を体験した。③地元農家さんの協力のもと、春に植えたさつまいもの収穫を体験。また収穫したさつまいもを焼き芋にして味わった。④村岡地区青少年育成協力会との共催で、地域の農家の畑でじゃがいもほりを実施した。</p>
3	<p><b>ウ 食育・健康施策との連携</b> 市は、食育・健康施策と連携し、藤沢産農水産物等及び地産地消の普及啓発に努めます。</p>	<p>【農業水産課】 健康づくり課が健康施策として実施する「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト～」と連携し、地産地消のPRを実施した。</p> <p>【健康づくり課】 公民館において食生活改善推進講座を実施し、農水産物・食品の理解促進に努めた。(講師による実演のみ。調理実習なし。) 「地場野菜を使って野菜嫌いをなくそう！」 11月湘南大庭公民館、12月湘南台公民館</p>	<p>【健康づくり課】 ①公民館において食生活改善推進講座を実施し、農水産物・食品の理解促進に努めた。 ・講座「ビギナーのためのベジクッキング トマト使いの達人になろう！」 ・講座「地産地消の美味しいおかず」 ②大学、高校に藤沢産のテーマを含むアイデア野菜レシピを募集。大学生に対しては、Instagramにより募集を行い、高校生に対しては、市内県立高校6校に募集を依頼した。 【地域保健課】 地産地消をテーマとした給食の提供について、報告依頼した。 (令和4年1月～12月分、対象施設:298施設)</p>
4	<p><b>(新)エ 未来を担う若い世代への普及啓発</b> 市は、関係機関と連携し、未来を担う若い世代に藤沢産農水産物等の魅力を知ってもらう取組や地産地消への理解が深まる取組を推進します。また、学生等が実施する地産地消の取組に対して支援します。</p>		<p>【生涯学習総務課】 ①夏休み子ども事業 お弁当を作ってみよう！(調理) ②子どもクッキング「シフォンケーキを作ろう」 ③子どもクッキング「おにぎりにぎり」 ④親子体験講座「ほうとう作り」</p>
5	<p><b>オ 藤沢産農水産物等の表示</b> 市は、生産者、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、加工業者等と連携し、安全・安心、新鮮、おいしい・旬の「藤沢産」を表すロゴマーク及びロゴマークシール等を活用し、「藤沢産」の認知度向上に努めます。</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 ①PR用ミニのぼり旗等の作成 藤沢産農水産物の需要拡大及び旬の農水産物のPRのため、わいわい市や量販店等において「藤沢産」のミニのぼり旗を設置した。 ②「藤沢産」ロゴマークシール(QRコード付)の作成 現在、無償配布を行っている「藤沢産」ロゴマークシールの周りにリニューアルを行った「おいしい藤沢産」ホームページのQRコードを載せ、それを読み取った消費者に対して藤沢産農水産物に関する情報を発信することで地産地消の普及啓発を図った。 ③果樹直売所用ダンボール作成 さがみ農協藤沢市果樹部と連携し、藤沢産ロゴマーク入りのダンボールを作成し、藤沢産果樹のPRを行った。</p>	<p>【農業水産課】 「藤沢産ロゴマークシール」を増刷し、生産者に配布した。 配布数:256,000枚</p>
《目標》	<p><b>目標値：藤沢産ロゴマークの認知度</b> ・現状(令和2年度アンケート調査) 36.4% ・5年後目標(年2.72%増加) 50.0%</p>		<p><b>目標値：藤沢産ロゴマークの認知度</b> ・現状(令和4年度アンケート調査) 40.0% ・5年後目標(年2.72%増加) 50.0%</p>

# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

## 1 長期的に取り組む施策

### (1) 藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策

#### ア 安全・安心な藤沢産農産物の生産・流通体制の整備

##### 【施策の目的】

消費者が求める安全・安心な農産物を提供するため、食品の安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組であるGAPや生産履歴の記帳の推進に努めます。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	(ア) GAPの取組の普及 市は、JAさがみと連携し、GAPの普及啓発に努め、国際水準GAPに準拠した取組を行う生産者や生産者団体の拡大に努めます。	実績なし	実績なし
2	(新)(イ) 生産履歴の普及 市は、JAさがみと連携し、市内JA関連直売所における生産履歴の適正な記帳の普及啓発を促進します。また、生産者は、安全・安心な農産物の生産に努めるとともに、農産物を生産するに当たり、種まきから栽培、収穫、収穫後の加工など、それぞれの工程で行った作業を履歴として記録し、消費者等の求めに応じて提出できるように、適正な生産履歴の記帳に努めます。		実績なし

イ 新鮮な藤沢産農水産物の提供

【施策の目的】

消費地に近い都市農業の強みを生かし、新鮮な藤沢産農水産物を消費者に提供します。

1	<p><b>(ア) 新鮮な藤沢産農水産物の提供</b> 市は、JAさがみ、漁業協同組合と連携し、直売所や朝市等で新鮮な農水産物を消費者に提供する機会の拡大に努めます。</p>	<p>【JAさがみ】 ・ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店実績(期間:R3.4.1~R4.3.31) 営業日数:311日 来店客数:434,679名 販売金額:983,380,946円(税込み) 《消費者向けイベント》 母の日フェア 母の日に合わせて、特設テントにてカーネーションとあじさいの販売を行い、消費拡大を図った。 ・感謝DAY12月25,26日で店頭特設テントにて、年末商材の販売を行い集客力の向上を図った。 《消費者向けイベントに代わる地場農畜産物のPR等》 ・全農かながわと連携し、旬の農畜産物を使用した料理の提案を実施した。 ・季節性を演出した店内レイアウトを実施し、旬の地場農畜産物の消費拡大を図った。 《新型コロナウイルス感染予防対策》 ○休業日の実施 毎週水曜日。 ※通常の営業時間:9時30分~17時 ※通常の定休日:毎月第三水曜日・12月31日~1月3日 ○AIサーモグラフィカメラを設置し自動検温を実施。 ○アルコール消毒液の設置。 ○各レジに飛沫感染防止用アクリル板の設置。 ○店内換気の実施。 [藤沢北営農経済センター] 『じものさん』 毎週火曜日と金曜日に遠藤支店にて新鮮野菜の販売 『ごしょみ〜な』 毎週火曜日に藤沢北営農経済センター、土曜日に御所見市民センターにて新鮮野菜の販売</p>	<p>【農業水産課】 ・藤沢産サンセットマルシェ 開催日:毎週水・金曜日 開催場所:市役所 サンセット広場 ・ふじさわ元気バザール 開催日:毎月第2土曜日 開催場所:藤沢駅北口サンパール広場ほか</p> <p>【JAさがみ】 『ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店』 新鮮野菜の販売 『じものさん』 毎週火曜日と金曜日に遠藤支店にて新鮮野菜の販売 『ごしょみ〜な』 毎週火曜日に藤沢北営農経済センター、土曜日に御所見市民センターにて新鮮野菜の販売</p> <p>【辻堂市民センター】 毎月、第2・第4木曜日に市民センター中庭で朝市を開催し、地元農家による新鮮野菜・果樹等と堀川網による魚介類の即売会を開催した。</p>
2	<p><b>(イ) 朝採り野菜の集出荷拡大による供給強化</b> 市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場と連携し、トウモロコシ等の豆類や葉物など鮮度が極めて重要な農産物については、積極的に朝採り野菜を集出荷し、その日のうちに消費者に届けられる体制整備を促進します。</p>	<p>【JAさがみ】 朝採りした春レタス・秋レタス・春キャベツ・トウモロコシを湘南藤沢地方卸売市場に出荷した。 【湘南藤沢地方卸売市場】 集出荷の方法については各種あるがその日のうちに店頭に並び、朝採りであることをPRした。</p>	<p>【JAさがみ】 朝採りした春レタス・秋レタス・春キャベツ・トウモロコシを湘南藤沢地方卸売市場に出荷した。 【湘南藤沢地方卸売市場】 集出荷の方法については各種あるがその日のうちに店頭に並び、朝採りであることをPRした。</p>

ウ 藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供

【施策の目的】

市民に、旬の農水産物等の購入場所やおいしい調理の方法等の普及啓発に努めるとともに、インターネットや様々なメディアを通じて藤沢産農水産物等のおいしさと旬の情報を広く伝えます。

1	<p><b>(ア) 藤沢産農水産物等のおいしい食べ方等の情報発信</b> 市は、生産者や関係機関と連携し、「新鮮でおいしい・旬の藤沢産農水産物等を使用したおいしい食べ方のレシピ」「藤沢産農水産物等を使用した丸ごと使い切りレシピ」「農業者及び漁業者のとおきレシピ」など、様々な食べ方について情報発信します。</p>	<p>・藤沢市広報番組のコーナー「ふじさわごはん」にて、藤沢産の旬の食材を使用したレシピを紹介した。「ふじさわごはん」で紹介されたレシピや講座で使用したレシピをおいしい藤沢産ホームページに掲載した。 ・「ふじさわ元気バザール〜藤沢野菜市〜」において、健康増進課と連携し、健康づくりのための野菜接種のPRを図るとともにレシピを配布した。</p>	<p>【農業水産課】 ・藤沢市広報番組のコーナー「ふじさわごはん」にて、藤沢産の旬の食材を使用したレシピを紹介した。「ふじさわごはん」で紹介されたレシピや講座で使用したレシピをおいしい藤沢産ホームページに掲載した。 ・「ふじさわ元気バザール〜野菜マルシェ〜」において、健康増進課と連携し、健康づくりのための野菜接種のPRを図るとともにレシピを配布した。</p>
2	<p><b>(イ) 藤沢産農水産物等の生産情報の提供</b> JAさがみは、ファーマーズマーケットわいわい市のリアルタイム情報を提供するため、店長ブログで藤沢産農水産物等の生産情報やおいしい食べ方の情報を発信します。</p>	<p>【JAさがみ】 JAさがみホームページわいわい市店長ブログにて「藤沢産」農畜産物の情報発信を行った。</p>	<p>【JAさがみ】 JAさがみホームページわいわい市店長ブログにて「藤沢産」農畜産物の情報発信を行った。</p>

3	<p>(ウ) 「おいしい藤沢産」ホームページ等での情報発信 市は、関係機関と連携し、ホームページやメールマガジン、フェイスブックなどのSNSを活用して、旬の藤沢産農水産物等や直売所、藤沢産利用推進店、地産地消のイベント・講座などの情報を発信し、藤沢産農水産物等の魅力が伝わるとともに藤沢産農水産物への理解が深まるよう情報提供に努めます。 また、テレビやラジオなどのメディアを通じて、藤沢産農水産物等に関する情報提供を行います。</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 2月に藤沢産サンセットマルシェの様子を撮影し、編集をして3月にYouTubeに公開をした。藤沢産農水産物を紹介するPR動画作成し、藤沢産農水産物への理解を深めてもらい、地産地消の推進を図った。</p>	<p>【農業水産課】 YouTubeにショート動画を4本を投稿した。 おいしい藤沢産Instagramによる情報発信を開始した。</p>
---	---	---	--

エ 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化

【施策の目的】

市内で生産される農水産物等を「藤沢産」と位置づけ、飲食店や量販店等における藤沢産農水産物等の需要拡大と安定供給を強化します。

1	<p>(ア) 藤沢産利用推進店の充実 市は、「藤沢産利用推進店」登録店舗数の増加及び「藤沢産利用推進店」における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、藤沢産農水産物等の入手先情報の提供等に努めます。 また、申請手続きの負担軽減を図るため、申請手続きのオンライン化を推進します。</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 ①地産地消弁当販売事業 11月15日(月)～11月30日(火)までの月曜日から金曜日まで(祝日は除く)各日11時～14時までの3時間で市役所サンセット広場にて藤沢産利用推進店テイクアウト部会連絡協議会と連携して藤沢産新米(品種:はるみ)及び農水産物等を使用した弁当販売を実施した。 ②藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成 「食べ歩きマップ(日本語版)」を作成し、藤沢市内のホテル等に配架してもらい、藤沢産利用推進店のPRを行った。 マップ作成エリア:藤沢駅周辺(2,000部)、片瀬江ノ島駅・鵜沼海岸駅周辺(1,500部) ③藤沢産利用推進店の充実 藤沢産利用推進店登録店舗数の増加及び藤沢産利用推進店における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、新たに市のホームページ等において、藤沢産農水産物等の入手先情報を発信し、生産者と既存の藤沢産利用推進店や新規の藤沢産利用推進店に登録してもらえよう飲食店等とのマッチングを図った。</p>	<p>【地産地消推進事業実行委員会】 藤沢駅周辺版」「片瀬江ノ島駅・鵜沼海岸駅周辺版」の内容を最新に更新するとともに、増刷した。 増刷にあたり、「藤沢駅周辺版」「片瀬江ノ島駅・鵜沼海岸駅周辺版」の英語バージョンを作成した。  【文化芸術課】 レストラン アプローチ(藤沢市民会館 ホール棟2F)において、藤沢産利用推進店メニューを提供した。 ・ポーク生姜焼き 723食 ・シラスと大葉のピラフ 730食</p>
2	<p>(イ) 量販店等での藤沢産コーナーの設置促進 市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、商工会議所等と連携し、市内量販店等の旬の時期を中心とした藤沢産農水産物等の販売コーナー設置に取り組み、市民への藤沢産農水産物等の供給を促進します。</p>	<p>・地産地消推進事業実行委員会の事業として、農産物にQRコードを貼付し、それを読み取った消費者に対して農産物の特徴や生産者などの情報を発信することで、藤沢産農産物のPRを行った。</p>	<p>PR物品を作成し、藤沢産コーナーの設置促進を図った。 PR物品は市内量販店6店舗で活用いただいた。</p>
3	<p>(ウ) 藤沢産農水産物等の流通促進 市は、湘南藤沢地方卸売市場、JAさがみ、漁業協同組合等と連携し、藤沢産農水産物等の集荷拡大と安定的確保に努め、市内流通の促進を図ります。</p>	<p>・JAさがみ藤沢地区共販出荷量(荷受日ベース) 出荷量:3881.7t 湘南藤沢地方卸売市場 (丸中青果湘南支社)出荷量:1594.57t 出荷率:41.08%</p>	<p>【JAさがみ】 共販出荷量:3,724.19t、出荷人数:147人 【文化芸術課】 地元の草花を活用し、庭園管理を実施した。 【みどり保全課】 公共施設等花壇草花植付業務委託において、市民センター等に藤沢産の花苗を植栽した。(パンジー 他6種、5173株) 藤沢駅南口他植樹樹管理業務委託において、藤沢駅南口デッキ通路等に藤沢産の花苗を植栽した。(ポーチュラカ他4種、1,315株)</p>



# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 長期的に取り組む施策

(2)本市農水産業を維持・発展させるため継続的に取り組む施策

ア 担い手の育成支援及び確保

【施策の目的】

本市農水産業を維持・発展させるため、高齢化や担い手不足など厳しい経営環境にある都市農業と水産業を守り育てるために、担い手の確保・育成に関する取組を推進します。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	(ア) 農業後継者への支援 市は、農業後継者が希望と意欲をもって農業に取り組む、農業経営を安定させるため、農業後継者に対する研修や経営改善に関する取組等を支援します。	【農業水産課】 農業後継者支援事業として、ブドウ棚の簡易雨よけ設置に係る費用の一部を補助した。	【農業水産課】 農業後継者支援事業として、運搬車・遮光カーテン・電動ばさみの費用の一部を補助した。
2	(イ) 新規参入者への支援 市は、農外からの新規参入者や新規参入法人に対し、本市農業の新たな担い手となるよう、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	【JAさがみ】 ・就農を希望するものに対し、青年等就農計画の認定を12名に行った。 (参考) ・農外からの新規参入者数 5人	【農業水産課】 新規就農者の支援・育成 ○就農相談件数 44件 ○農外からの新規参入者数 7件 ○経営開始型、経営開始資金 交付対象者:12人 交付額:15,326,551円 ○農業研修受入支援事業 30,000円×9人 ○技術習得支援事業 交付対象者:2人 交付額:27,000円
3	(ウ) 農福連携による担い手の育成 市は、関係機関と連携し、高齢者、障がい者、生活困窮者、困難を抱える若者などの社会参加に対し、農業がその受け皿となり、本市農業の新たな担い手となるための仕組みを構築し、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	【農業水産課】 ・援農ボランティア登録者数 243人(内新規登録51人) ・援農ボランティア受入農家数 50戸 ・農福連携促進事業申請件数 7件	【農業水産課】 ・援農ボランティア登録者数 271人(内新規登録44人) ・援農ボランティア受入農家数 44戸 ・農福連携促進事業申請件数 9件
4	(新)(エ) 漁業の担い手の確保 市は、本市漁業の魅力発信に努め、新たな担い手の確保につながる取組を推進します。		【農業水産課】 市内小学校24校2,398人の片瀬漁港見学を受け入れた。
5	(新)(オ) テクノロジー導入への支援 市は、担い手の高齢化や労働力不足を解消するため、ロボット技術やICT(情報通信技術)、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)等の先端技術の活用に取り組む農業者及び漁業者を支援します。		実績なし
6	(カ) 援農ボランティアの充実 市は、農業に関心のある市民に対して援農ボランティア養成講座を開催することで、市民の農業への理解促進を図るとともに農家の労働力不足解消に資する取組を推進します。	【援農ボランティア養成講座】 市内2箇所、5月～10月の全6回開催。 受講生51人、講座終了後援農ボランティア登録47人	【援農ボランティア養成講座】 市内2箇所、5月21日開講、11月5日閉講。 受講生56人、講座終了後援農ボランティア登録44人

イ 持続可能な生産環境への支援

【施策の目的】

本市農水産業を維持・発展させるため、環境負荷の軽減や水産資源の確保等の持続可能な生産環境に関する取組を推進します。

1	<p><b>(ア) 環境保全型農業の推進・取組支援</b> 市は、エコファーマーや有機農業者等の化学農薬や化学肥料の使用の低減等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を実践する生産者の取組を支援します。</p>	<p>・藤沢市水田保全事業を実施し、環境に配慮した水稻生産者に対し奨励金を交付した。 奨励金交付対象者 118人 ・国が実施する環境保全型農業直接支払交付金に取り組む農業者団体に対し支援を行った。 農業者団体 2団体</p>	<p>環境に配慮した農業の推進 ○土壌病害菌防除農薬導入事業(228,000円) 事業費:457,424円×1/2以内 ○環境保全型農業直接支払交付金(1,012,800円) 対象面積844a×1,200円 ○水田保全事業奨励金(25,000,000円) 10aあたり50,000円(50円/㎡)</p>
2	<p><b>(イ) つくり育てる漁業の推進</b> 市は、水産資源の保護・増殖を目的に、漁業協同組合や関係機関と共同して、藻場の保全に取り組み、稚魚・稚貝の放流事業を実施することで、藤沢産水産物の持続的かつ安定した供給に努め、水産業の振興を図ります。</p>	<p>・水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 25,010個 ・ハマグリ 390kg ・マダイ 4,120尾 ・ヒラメ 5,000尾 ・アワビ 4,870個</p>	<p>・水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 26,500個 ・ハマグリ 703kg ・マダイ 9,000尾 ・ヒラメ 9,000尾</p>
3	<p><b>(ウ) 農地の多面的機能の理解促進</b> 市は、生産者及び地域住民等の団体、関係機関と連携して農業資源の適切な保全を図り、あわせて良好な自然景観や環境の形成も含めた農地の多面的機能の理解促進に努めます。</p>	<p>国が実施する多面的機能支払事業に取り組む活動組織に対して支援し、農地等の環境資源を活かした地域の共同活動を通じて、農地の多面的機能の理解促進に努めた。 活動組織 2組織(西俣野地区、打戻地区)</p>	<p>国が実施する多面的機能支払事業に取り組む活動組織に対して支援し、農地等の環境資源を活かした地域の共同活動を通じて、農地の多面的機能の理解促進に努めた。 活動組織 2組織(西俣野地区、打戻地区)</p>

# 第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

1 長期的に取り組む施策  
(3)関連する施策との連携

**【施策の目的】**

関連する施策と連携を図り、より効果的に地産地消を推進します。

No	具体的な取り組み	令和3年度取組実績(第4期)	令和4年度取組実績
1	<p><b>ア 公民館・地域団体等が実施する施策との連携</b> 市は、13地区の公民館や地域団体等が実施する事業と連携を図ることにより、藤沢産農水産物等及び地産地消の理解促進に努めます。</p>	<p><b>【六会】</b> ①「むつ愛プロジェクト(稲作体験)」②「伝えよう！六会流しめ飾り」③「じゃがいも掘り」④「ジニア苗育成及び配布」⑤「パンジー苗育成及び配布」⑥「マリーゴールド、パンジー苗の提供」</p> <p><b>【片瀬】</b> ①弁天橋花いっぱい愛好会～花植え～</p> <p><b>【御所見】</b> 田園パーク構想推進事業として次の6事業を実施した。 ①少年の森駐車場前の畑に、ざる菊の定植作業を行った。②御所見市民センター内花壇に藤沢の花を植栽した。(マリーゴールド、サルビア、ホウセンカ、ひまわり 計500苗)③少年の森内花壇に藤沢の花を植栽した。(コスモス 500苗)④遠藤・御所見地区で開催された『ONSENガストロノミー』で地場野菜を使った御所見グルメ「ごしょみ汁」を100人分提供した。⑤少年の森花壇に藤沢の花を植栽した。(パンジー、ノースポール 計500苗)⑥御所見市民センター花壇に藤沢の花を植栽した。(パンジー、ノースポール 計500苗)</p> <p><b>【遠藤】</b> ①遠藤あじさいの会において、地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。②小出川彼岸花団体協議会において、遠藤会場で地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。</p> <p><b>【長後】</b> ①農家の指導の下、プランター等でもできる野菜作りを学ぶ「家庭菜園の始め方～なす編～」家庭菜園の始め方～ブロッコリー編～」を開催した。※地元野菜の即売会を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。</p> <p><b>【善行】</b> ①スクスクスクール(乳幼児家庭教育学級)において、「地元の名店シェフ直伝野菜おかずレッスン」と題し、藤沢産の食材を使ったおかず、菓子の調理方法を講義実演した。Web会議システム(Zoom)にて開催した。②善行子ども探検隊Kid's 2021において、地域住民の所有している栗畑で、地域の方たちの指導の下、栗拾い体験を実施し、参加した子ども同士の交流と、地域の方たちとの交流を深めることを計画していたが、悪天候のため中止となった。地域住民が収穫した栗を後日配布した。③ふれあいもほり大会において、善行地区内の畑で栽培したさつまいもを、地区内福祉団体利用者が収穫する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。いもの収穫は主催団体役員等で行い、参加予定福祉団体に配布した。</p> <p><b>【湘南台】</b> ①地域福祉を支える会において、地区内の小中特別支援学級に通う児童・生徒に地元で採れたジャガイモを提供した。②親子ふれあい農園において、農業体験イベントとして企画し、参加者を募ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係者のみの実施となり、参加予定者には畑で収穫されたサツマイモを提供した。</p> <p><b>【村岡】</b> ①村岡地区の小学生(4～6年生)を学級生とし、地域の農家の畑でさつまいもの苗植え・収穫を行った。②村岡地区の小学生を対象に、地域の農家の畑でじゃがいもほりを実施した。</p>	<p><b>【六会市民センター】</b> ①市内産ジニア苗・パンジー苗の幼苗を育成し、地区内の公園・小中学校・特別支援学校、花のボランティア団体等に花苗を配布した。②駅周辺の環境美化活動ボランティア団体である六会グリーンクラブに、市内産花苗を提供した。③第43回六会公民館ふるさとまつりにおいて、模擬店の一つとして、地元で育てた野菜を生産者にお店に立っていただき、販売を行った。(里芋、かぶ、小松菜、キャベツ)</p> <p><b>【片瀬市民センター】</b> ①弁天橋花いっぱい愛好会花植え事業として、花の植え替え(年2回)、水やり、草取りを実施。1回目はマリーゴールド650株、ポーチュラカ150株、2回目はノースポール250株、ビオラ550株。</p> <p><b>【御所見市民センター】</b> ①少年の森内花壇に藤沢の花を植栽した。②少年の森駐車場前の畑にざる菊の定植作業を実施した。③御所見市民センター内花壇に藤沢の花の植栽を実施した。④少年の森プランターへの植栽を実施した。⑤くずはら里山広場に藤沢の花の植栽を実施した。</p> <p><b>【遠藤市民センター】</b> ①第23回遠藤あじさいまつりにおいて、地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。②遠藤会場で地元で採れた新鮮野菜の販売を行った。</p> <p><b>【長後市民センター】</b> ①6月と11月に花苗を長後駅東ロータリー及び駅前通りに植栽した。</p> <p><b>【湘南台市民センター】</b> ①地区内の小中特別支援学級に通う児童・生徒に地元で採れたジャガイモを提供した。②農業体験イベントとして企画し、参加者はサツマイモの苗植え、蔓返し、収穫を行った。</p> <p><b>【辻堂市民センター】</b> 歩道脇の花壇等において、藤沢産の花苗を植栽した。</p> <p><b>【村岡公民館】</b></p>

		<p>【青少年課】 「藤沢ごしょみ産アウトドアクッキング！」を開催し、藤沢産(御所見地区)のおいしいお肉や野菜など(豚肉・米・すくなかぼちや・かぶ・小松菜・冬瓜・里芋・ジャガイモ・黒大豆)を、たき火で調理した。</p> <p>【スポーツ推進課】 2022年に実施されるねんりんピックかながわ2022藤沢市交流大会のソフトバレーボール競技のリハーサル大会において、藤沢産利用推進店に藤沢産を使用した弁当を発注し、役員等へ配布した。</p> <p>【みどり保全課】 公共施設等花壇草花植付業務委託において、市民センター等に藤沢産の花苗を植栽した。(パンジー 他5種、6,321株) 藤沢駅南口他植樹樹管理業務委託において、藤沢駅南口デッキ通路等に藤沢産の花苗を植栽した。(ポーチュラカ他4種、1,315株)</p> <p>【議事課】 展示パネルの1枚に「議員提案による条例制定」として、「藤沢市地産地消の推進に関する条例」と藤沢の地産地消を紹介した。</p> <p>【文化芸術課】 藤沢市民会館庭園管理業務の一部花壇の植え替えについて、藤沢産の花弁を使用した。 レストラン アプローチ(藤沢市民会館 ホール棟2F)にて、藤沢産利用推進店メニュー(ポーク生姜焼き、シラスと大葉のピラフ)を提供した。 「竹林で一日を楽しく過ごそう」にて、地元の竹林環境整備の一環として、タケノコ掘りを実施した。工作はコロナ対策のため中止した。 「夏休み親子で竹炭作りを体験しよう！」にて、地元の竹林でとれた竹を活用し、竹炭を作る作業の体験を実施した。</p>	<p>【文化芸術課】 地元の竹林でとれた竹を活用し、竹炭を作る作業の体験を実施した。</p>
2	<p><b>イ 観光施策との連携</b> 市は、観光施策と連携させた事業を実施することにより、生産者と消費者の交流促進を図るとともに、藤沢産農水産物等が広く普及するよう努めます。</p>	<p>【観光課】 のどかで心落ち着く田園風景の広がる藤沢市遠藤・御所見地区をめぐり、豊かな土地の中で育った果実・野菜・畜産を食べ、県内の銭湯につかる「ONSEN・ガストロミーウォーキングin 藤沢」の後援を行った。</p>	<p>【観光課】 片瀬漁港において、フィッシャーマンズマルシェを開催した。</p>
3	<p><b>ウ シティプロモーション事業との連携</b> 市は、シティプロモーション事業と連携することで、藤沢産農水産物等の魅力を高めるとともに、市民が自らその魅力の発信者になるような取組について推進します。</p>	<p>【郷土歴史課】 指定管理者を通じてふじさわ宿交流館において、藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」の販売取次を行った。</p> <p>【広報シティプロモーション課】 ・Facebook、Twitter、Instagramを活用し、宮原ブルーベリー摘み取り農園の広報周知を行った。 ・Facebook、Twitterを活用し、石川のカボチャ畑の広報周知を行った。</p>	<p>【郷土歴史課】 指定管理者を通じて、社会福祉人と共同で開発した藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」を、ふじさわ宿交流館において販売取次を行った。</p>

第5期地産地消推進計画の取組項目以外で地産地消の取組を実施している場合はご記入ください。